

## 平成23年度 新産業振興課組織目標

目標項目 (何を)	22年度評価	23年度方針 (どんな状態にする)	目標数値(どれぐらい)			達成手段 (どのようにして)	
			22年度		23年度		
			目標値	実績	目標値		
<b>働く場への橋架け</b> 人のつながりや地域のつながりを強化することなどにより、若者、女性、障害のある人、高齢者、外国人など、誰もが多様な働く場に参加でき、力を発揮できる環境を整備し、地域社会での安定した生活の糧を確保します。	伝統産業弟子入り体験推進事業 (新産業振興課)	新規	芸術系大学生や高校生が、産地組合等の受け入れにより、伝統産業のものづくり体験と研修課題に取り組む。	-	-	弟子入り体験者数 50人	9つある地場産業の組合のうち、5組合に弟子入り体験者を10名ずつ受け入れてもらうことによって50名の目標値を達成する。
<b>環境領域</b> 本県で培われてきた環境への取組を活かし、技術革新の推進により、国際的潮流を視野に入れながら、環境領域での滋賀らしい持続可能な産業振興を目指します。	電池産業支援拠点形成事業(新産業振興課)	新規	工業技術総合センターおよび東北部工業技術センターに「電池産業支援拠点」を形成して、中小企業と共同で研究開発を実施する。	-	-	共同研究件数 2件実施	電池産業の開発部材の評価に不可欠な設備を設置し、工業技術センターで企業を育成する。
	戦略的環境ビジネス育成事業(グリーンテックプロジェクト) (新産業振興課)	(社)滋賀経済産業協会の川上川下ネットワーク構築事業(中小企業基盤整備機構委託事業)において分野別分科会3件(新エネルギー、次世代自動車、次世代住宅)を設置した。	40社	40社	40社	川上の中小企業と川下の大手企業との出会いの場を創出する。	

<p><b>医療・健康領域</b></p> <p>医療ニーズや健康増進ニーズに応える技術の研究開発やサービスの発展・向上により、介護分野を含む医療・健康領域における産業振興を目指します。</p>	<p>医工連携ものづくりプロジェクト創出支援事業の推進 (新産業振興課)</p>	<p>-</p>	<p>国の選定を受けた「しが医工連携ものづくり産学官連携拠点」を活動基盤に、医工連携による研究開発プロジェクトを推進するとともに事業化を支援する。</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>研究プロジェクトの創出・事業化 (26 末目標：事業化2件)</p>	<p>新型医療機器の薬事承認を促進するため、企業向けのセミナーや専門家派遣を実施するとともに、薬事関係事務を所管する健康福祉部との連携を強化する。</p>
<p><b>モノづくり基盤技術領域</b></p> <p>科学技術の活用等を一層推進するとともに、県内で育まれた技術や技能を継承・発展させながら、付加価値の高いモノづくり基盤技術の振興を目指します。</p>	<p>近江技術てんびん棒事業による販路開拓支援(新産業振興課)</p>	<p>県外大手企業に対し直接かつ具体的に提案する展示商談会等を開催した。 ・トヨタ自動車(株)(6月) ・ダイハツ工業(株)滋賀(竜王)工場(9月) ・大阪ガス(株)(10月) ・大和ハウス工業(株)(1月) のべ96社の出展があり、販路拡大に繋がった。 【商談の進捗状況】 商談成立件数 16社27件 (16,604千円)</p>	<p>引き続き、展示商談会や技術マッチング会を開催し、県内中小企業のビジネスチャンス拡大を図る。</p>	<p>-</p>	<p>96社</p>	<p>60社</p>	<p>裾野の広い自動車や電器などの大手企業と県内企業との出会いの場を創出し、販路開拓を支援する。</p>
<p><b>グローバル化対応戦略</b></p> <p>新興国市場の拡大に伴い急速に進展する経済のグローバル化に呼応し、本県産業の一層の振興に向けた機会とするため、県内企業による国際取引や、海外からの観光客や企業の誘致を促進するなどの展開を図ります。</p>	<p>「てんびん棒中国へ渡る」事業による販路開拓支援(新産業振興課)</p>	<p>県内経済団体が昨年8月に開催した湖南省で初の海外商談会を支援し、環境関連の13社が参加した。</p>	<p>引き続き、県内経済団体が現地に出向き開催する予定のオール滋賀企業による「中国湖南省商談会」を体制を整えて支援する。</p>	<p>-</p>	<p>13社</p>	<p>30社</p>	<p>県内経済団体が開催予定している「中国湖南省商談会」について、参加企業の技術レベルや湖南省側の要望を十分に把握し、事前準備を行うことでよりよいマッチングを図る。</p>